

令和7年2月25日

世田谷区立玉川中学校
校長 奥平 雄二 様

世田谷区立玉川中学校
学校関係者評価委員会

令和6年度学校関係者評価委員会 報告書

1. 目指す学校像

玉川中学校では、「令和6年度学校経営方針」において、以下の4点を目指す学校像としている。

- (1) 「生徒の夢や志を叶え、夢中になれる」学校
- (2) 全教職員がチームとなり、生徒の学力・体力の向上、キャリア・未来デザイン教育・進路指導の充実を図り、義務教育としての最終段階の責任を果たす学校
- (3) 正解のない困難な時代を自ら考え未来を切り拓く力を身に付けることができるよう学びの質の転換を図る学校
- (4) 生徒、保護者、地域にとって信頼され期待される学校

2. 令和6年度に向けた改善方策

令和6年2月作成の「令和5年度学校関係者評価委員会報告書」等から明らかになった玉川中学校の教育活動の成果と課題を踏まえ、より充実した教育活動を展開するために、玉川中学校では、令和6年3月29日付け「令和6年度に向けた改善方策」において、以下の項目に対する改善方策を掲げている。

- (1) 学習に関して、生徒に確かな学力を身に付けるための、教員の指導力向上、教科教室型の教室の特性を生かした授業改善、個に応じた指導の充実等
- (2) 生活指導に関して、生徒の個に応じた指導のための、全教職員で取り組む学校づくり、相互関係の良好な醸成、人間の多面性・多様性を理解した指導
- (3) 情操教育に関して、豊かな人間性を育てるための、学校目標の確実な達成
- (4) キャリア教育に関して、自己の将来・未来のための、キャリア教育の意義の理

解、生徒の希望に沿った進路指導の実現

(5) 基本的な生活習慣の確立に関して、豊かに成長するための、「食事」「睡眠」を大切にする生徒の育成等

(6) 情報提供に関して、学校を理解し支援してもらうための、学校の取り組みや活動状況等の積極的な発信等

3. 成果と課題

当評価委員会では、生徒、保護者、地域の各「アンケートの回答分布と平均」、学校の「分析と考察」、ヒアリング結果等を総合的に考察し、「2. 令和6年度に向けた改善方策」の項目を中心に以下のとおり成果と課題を確認した。

なお、コロナ禍で学校の運営状況が大きく変化していることから、学校関係者評価アンケートの集計結果の分析に際しては、原則、昨年度との経年比較に留めるとともに、WEBによるアンケートへの変更に伴って保護者アンケートの回収率が減少していることを考慮して検討した。

(1) 学習に関する成果と課題

改善方策では、教員の指導力向上を目指すとして、校内研修の実践継続とキャリア・未来デザイン教育を基本に据えて、校内研修として「音楽」、教科「日本語」を校内研究授業とし、「学び舎での学びを見通した指導の工夫」を研究していくとしていた。令和6年度の学び舎の連携として、継続して実施している中学校紹介に加えて中学生合唱披露の会を新たに行うとしていた。

次に、教科教室型の教室の特性を生かした授業改善を目指すとして、タブレット型情報端末（以下「タブレット」という。）を積極的に活用したわかる授業を展開するために、異動直後の教員研修の実施や機器、資料の整備の工夫などの視点によって教員全体で取り組むとしていた。アンケートでは、先生は、映像やタブレットなどのICTを利用し、分かりやすい授業をしているについて生徒の肯定的評価が5ポイント程度上昇していた昨年度に引き続き、7ポイント程度上昇していることから、年度ごとに取り組みの成果が上がってきていることがうかがえる。引き続き、教員全体でさらなる生徒の豊かな学びの向上を図って欲しい。

そして、個に応じた指導の充実を目指すとして、リーディングスキルテストの結果を踏まえた生徒の着実な読解力の養成、保健体育科におけるTTの授業やダンス授業、数学・英語における少人数習熟度別指導の効果的な指導を展開し、個の能力に応じた指導を充実させるとしていた。また、今年度も「TOKYO GLOBAL GATEWAY」での英語移動教室（2年生）などの取り組みも行われていた。

アンケートでは、個に応じた指導、基礎を固める指導などについて、生徒の肯定的評価が5ポイント程度上昇していた。

(2) 生活指導に関する成果と課題

改善方策では、全教職員で取り組む学校づくりを目指すとして、いじめや犯罪行為に対する学校の方針等を生徒・保護者に示し問題行動の未然防止を図るとともに本校の生活指導方針の共通理解を徹底するとしていた。アンケートでは、先生が指導した学校での過ごし方やルールについて理解できるについて生徒の肯定的評価が13ポイント程度上昇していた。引き続き、問題行動の未然防止に向けた取組みに努めるとともに課題が生じた際は生徒に寄り添った指導の徹底を図られたい。

次に、相互関係の良好な醸成を目指すとして、二者面談等で生徒の実態把握や学校生活の不安解消に努めることに加え、良好な信頼関係の構築のために保護者等への連絡・相談を迅速かつ丁寧に行うとしていた。アンケートでは、昨年度の当報告書でさらに進めてほしいとした生徒の相談しやすさについて、肯定的評価の割合が10ポイント程度上昇していた。引き続き、相談しやすい状況を確保していただきたい。

そして、人間の多面性・多様性を理解した指導を目指す取組みとして、学校としての指導の統一性を明確にし、一貫性のある指導を行うなどとしており、令和6年度は、道徳授業地区公開講座「いじめ撲滅を目指して」、「ジェントルハートメッセージ展」を実施していた。

(3) 情操教育に関する成果と課題

改善方策では、学校目標の確実な達成を目指すとして、自己や他者について深く考えることができる力を育成するとともに多様な学校行事や自治活動を通して、自己の役割や他者と協調することの大切さを実感させることで、実践・行動できる生徒を育成するとしていた。今年度の各学校行事等については、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後2年目の実施となった。アンケートでは、学校行事に関しての生徒の肯定的評価が昨年度に比べて4ポイント程度上昇していた。これは、コロナ禍以降の各行事等における取組みが定着しつつあると考えられる。また、先生は生徒の意欲を大切にしているについて、生徒の「とても思う」の評価が昨年度の5ポイント程度上昇に続き9ポイント程度上昇していた。これは、コロナ禍以降の運動会準備委員会等での生徒の意見を反映させる取組みが成果をあげていると考えられる。今後もこのような取組みを積極的に推進してほしい。一方、ボランティアに関して積極的に取り組んでいることについて生徒の肯定的評価が、昨年度の17ポイント程度減少に続き今年度も20ポイント程度減少していたので、コロナ禍後のボランティア活動の推進方法等に関する検討が必要と考える。

(4) キャリア教育に関する成果と課題

改善方策では、キャリア教育の意義の理解を目指すとして、全学年でキャリアパスポートに取り組み、どの時期に何をすべきなのかを理解させながら、継続的で、より発展的なキャリア教育を展開するとしていた。今年度は、職場体験学習、東京都産業

労働局主催の起業家教育（アントレプレナーシップ教育）が行われていた。アンケートでは、キャリア教育に関しての肯定的評価が、5ポイント程度上昇していた学校による情報提供以外は微減となっていた。キャリアパスポートを生徒に浸透させるためにも引き続き丁寧な説明を徹底させていただきたい。

そして、希望に沿った進路指導の実現を目指す取組みとして、高校説明会 IN 玉川中（2・3年生）、進路説明会（2・3年保護者）、定時制課程、チャレンジスクールなど多様な進路等の高校説明会（希望者）、都立高校出張授業（2年生）について前年度から拡充して取り組まれていた。

（5）基本的な生活習慣の確立に関する成果と課題

改善方策では、適切な生活リズムの確立を働きかけるとし、なかたまスタンダードの「あいさつ」「時間のけじめ」「聞く姿勢」「タブレットの節度ある使用」等、他者との好ましい関係を築くための不可欠な事項を集団生活の中で育成するとしていた。本校では、「スマートフォンとの付き合い方に関する講話」を行ったネットリテラシー醸成講座、薬物乱用防止、特殊詐欺防止についての注意喚起を行うセーフティ教室を実施していた。アンケートでは、あいさつ、規則正しい生活に関する生徒の肯定的評価が、規則正しい生活の8ポイント程度をはじめそれぞれ上昇していた。あいさつ、規則正しい生活に関しては、昨年度同様、コロナ禍を経験した影響、タブレット配付の影響が少なからずあると懸念されることから、引き続いて状況を注視しながら指導に取り組んでいただきたい。

（6）情報提供に関する成果と課題

改善方策では、学校の取組みや活動状況などを積極的に発信し、教育活動への理解を推進するとしていた。ホームページにおける情報発信では、昨年度同様に、校長先生のコラムとして「学校日記」を小まめに発信するとともに、保護者の要望と働き方改革の側面から、配布プリントの「すぐえる」での配信を行っていた。アンケートでは、情報提供に関する保護者の肯定的評価について、様々な便りなどによる情報提供、ホームページなどによる情報提供、学校公開などで生徒の様子がわかるが上昇もしくは横ばいとなっていた。

一方、「なかたまの学び舎」に関する情報提供に関しては、昨年度同様に、保護者の肯定的評価が低下していた。これは、コロナ禍で活動が制限されたことの影響が続いていると考えられるが、学校では、学び舎の小学生とその保護者、教職員に向けて玉川中学校の魅力・特徴を知ってもらうために「玉川中学校オープンキャンパス」と称した取組みを開始していた。区としても乳幼児期から小・中学校における質の高い教育の推進を掲げていることから、小学校に対する「学び舎」としての取組みは大切と考える。今後の取組みに期待したい。

4. 学校関係者評価委員会の総合所見

(1) 令和7年度に向けた課題

学校運営は、コロナ禍を経て大きく変化しており、その中で工夫を重ねながら学校運営を行ってきたことがうかがえた。

昨年度の報告書では、「ICTを活用した学びと教職員の子どもたちに向き合う時間の拡充の円滑な推進」に取り組むことを第1の課題とさせていただいた。今年度の振り返りでは、アンケートなどからICT活用と生徒と向き合う時間の拡充に向けた取り組みが着実に推進されていると見受けられた。一方、区教育委員会では、令和6年度からの世田谷区教育振興基本計画の中で学校への支援と働き方改革の重点取り組みとして、学校への支援体制の強化、教育DXの更なる推進を掲げ、令和7年度は、生徒に配付されたタブレットの更新、教育ダッシュボードの活用などを予定しているとともに、本校では部活動地域移行モデル校としての取り組みが予定されている。

このような状況を鑑みて、来年度においては、今年度同様に「ICTを活用した学びと教職員の子どもたちに向き合う時間の拡充の円滑な推進」を第1の課題として提言したい。区教育委員会と連携を図りながら、本校の教職員全体の取り組みで円滑に推進されることを期待している。

(2) 安全安心な教育環境の確保に向けて（特記事項）

区教育委員会では、昨今の猛暑・酷暑による学校施設の遮熱対策について、令和7年度に拡充して取り組むとしている。本校では、暑熱対策として今年度体育館の窓のロールアップスクリーン設置、体育館天井の遮熱シート設置などが行われていた。一方、ゲリラ雷雨により、矢沢川方面の校門までの通路が冠水する状況も発生している。学校生活における安全な環境は、生徒にとって必要不可欠であることから、学校施設の状況を的確に把握して、生徒の安全面、健康面からの優先的な対応を進めてもらいたい。特に、本校は小学校及びスポーツ施設と共存しており管理者が複数いることからそれぞれの管理者と連携して安全安心な教育環境の確保に向けて積極的に取り組んでいただきたい。

5. 終わりに

世田谷区における学校評価のねらいの一つに「学校の改善」がある。それは、各学校が、自ら教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ることである。当評価委員会は、今回の報告書がより質の高い学校教育の実現のための一助となるとともに、来年度の教育活動が生徒一人ひとりにとってより実のある教育活動となり、子どもたちが将来に向けて未知の世界を切り拓く力を育んでいける教育となるように、委員一同、心から期待している。

令和6年度世田谷区立玉川中学校
学校関係者評価委員会

委員長	添田	茂		
委 員	池光	薫、	伊澤	恵味子
	齊藤	由美、	澁澤	千春
	辰巳	雄一		